平成 31 年度　一般選抜中期日程/経済・公共マネジメント学科　英語
出題の意図と解答の傾向

英語を実際に使用する能力が身についているかを見るために設問も全て英語とした。

Ⅰ（１６０点）
問１（１０点）
【解答例】
英国の王様が何度も変わっていたこと。

【解答の傾向】
指定された部分が、具体的に何を意味するのか、指示されている箇所（第 1 パラグラフ）の内容を理解した上で、日本語で回答する問題である。正確に意味を理解しつつ、日本語の文章表現として成立するものを評価した。この部分は王様の変遷について述べているが、ただ一度変わっただけでなく、複数回変わったということを明示する必要があるので、その表現をしているかに重点を置いて評価した。回答として一度だけ変わったとしかとれない表現や「指導者」や「権力をもつ者」など王様という表現をしていないものも散見された。

問２（２０点）
【解答例】
多くの新しい言葉が誕生したので、人々は英語が大きく変わると思い、不安があったから。

【解答の傾向】
本問の回答として、①「多くの新しい言葉の誕生」によって、②「英語という言語が大きく変わってしまう」ことに、③「不安（恐れ、あるいは心配）」があった、ときく 3 つの部分に分けることができるが、ただ単に「新しい言葉の誕生」であることだけを示すもの、「英語が変わっていくことだけ」を示すものが散見された。また、「新しい言葉の誕生」（①）が「不安」（③）であったことだけを示すもの、あるいは、「英語という言語が大きく変わってしまう」（②）ことが「不安」（③）であったことを示すものなどの回答も多かった。また、意味を正確に理解せず、日本語の文章表現として成立していない回答も少なくなかった。「1685 年」との問題文の表記を取り違え、「1685 語」と示したりするなどのミスや日本語で説明せよという問いであるのに対し、数名が英語で表現するなどのミスも目立った。

問３（１０点）
【解答例】
To control the French language

【解答の傾向】
解答にあたって、ほとんどの受験生が paragraph 3 で着目した個所は、to control the English language または to ‘fix’ the language であった。この着目自体に誤りはないが、設問は 1635 年にフランスで始まった Académie Française の目的である。したがって、フランスでの出来事なので、to control や to fix の目的語は the French language でなければならない。しかし、解答の大部分は上記の個所の英文を書き写していただけか、目的語に language だけを書いたもの、あるいは目的語を記述していないものであり、受験生にとって French という単語が思い浮かばなかったようである。正解率は極めて低かった。the French language に代えて their language や the mother language を記述していた答案がほんのわずかあり、採点では配慮した。気になる点として、設問では Explain in English とあるにも関わらず、日本語での解答が少なからずあった。設問を注意深く読む必要がある。

問４（２０点）
【解答例】
誰もが同じつづり[や文法]を使う必要があるという認識が高まったから。

【解答の傾向】
・無解答のものが若干あった。
・解答を次の問題の解答欄まで使っているものがあった。
・英語で答えたものが若干あった。
・誰もが～、皆が～の主語が抜けている回答が若干見受けられた。
・「同じつづりを使う必要がある」ということを読み取れていない解答も若干見受けられた。

問５（１０点）
【解答例】
（“doubt”が）ラテン語から由来したことを示すため。

【解答の傾向】
正解は、「to show that words came from Latin」の部分が該当し、（“doubt”が）「ラテン語から由来したことを示すため。」などであるが、このことを十分に説明できていた受験生は５％ぐらいと少なかった。「ラテン語から由来したため。」と that 以下の部分だけを抜き出していたものや、後に続く「For example」以下の事例のところをみて「その語源のラテン語に b が含まるから。」といった回答など、部分的な説明で終わってしまって、文意を正確に読み取れていないものが多かった。また、「letter」を「手紙」と誤訳して、説明が混乱していた回答も少なからずみられた。

問６（３５点）
【解答例】
During the eighteenth century, ways of spelling that differed from these dictionaries were seen as incorrect and a sign of stupidity or a bad education.

【解答の傾向】
・能動態であれ、受動態であれ、主語 S＋述語 V＋補語 C（あるいは目的語 O）という基本的構造に従って解答できていないケースが散見された。
・関係代名詞の用法をきちんと理解できていないと思われる解答が散見された。The way of spelling which different from ～のようなケースがその一例である。Which の枠内に was があるか、differed from のようにするのが正しい。
・「これらの辞書と異なるつづり方」という個所を These dictionaries and different spelling と訳している解答が目立った。文章全体や文脈をよく理解していれば、「これらの辞書」が「基準」となり、「それとは異なるつづり」という意味で訳すことが求められているのは明らかであろう。
・Inaccurate、Incorrect のような否定を表す接頭辞に Un-を用いた解答が散見された。とりわけ「不正確」という個所を uncertain と訳している解答が目立った。「確実性」と「正確性」とを混同するケースの典型といえる。
・形容詞と副詞の違いをよく理解できていないと思われる解答や、何も修飾していない副詞を独立して使用するケースが散見された。
・「と見られていた」という個所を People regarded ～ as ～と能動態で解答しているものなど、工夫が施された良質な解答もみられた。

は、解答を読んで意味が理解できるかどうか、文法・語彙・綴り・句読点が正確に適切に使われているかどうか、受験生は難しい言い回しや語彙を使おうとしているかどうか、使った場合はどのくらい正確に使えたかなどを中心に評価を行った。

【解答の傾向】

Overall, there were many well-structured answers that effectively used compound and complex sentences with the correct use of discourse markers to introduce and structure ideas. The majority of the students clearly stated their opinions and included evidence to support their ideas.

Problems included frequent misuse of particles or pronouns, with errors such as "we need <u>to</u> people that speak English...", "I agree <u>with</u> that people should…", and "It is important for us <u>to speaking</u>…" being common.

There were quite a few problems with correctly expressing the idea of 社会人 in English. It was common to see answers talking about "becoming a social worker", "joining society", "entering the social world" when it would have been better to use an expression like "joining the work force" or "starting work after graduating from university", for example.

"I have a reason" / "I have two reasons" was commonly used to introduce ideas. While perhaps not technically wrong, it sounds unnatural and it would be better to use expressions like "The reason for this is that…", or "There are two reasons for this…", or more simply, "This is because…".

Related to the above, "I agree because I have some reasons" was another common error. "I agree because A" or "I agree for the following reasons" is appropriate here.

Double usage of verbs – expressions like "we will become to have…" or "we will become to be…" were quite frequent. There's no need to use both verbs here.

Abroad was often used as an adjective instead of *foreign*, or misused in "go to abroad" –there is no need to use "to" here.

The pattern "I will must do a and b" also showed up quite frequently. It should be either "I will do…" (I am going to) or "I must do…" (I plan to or need to).

Many students used variations of the structures "If you don't A then you won't B", but often got it wrong. Common errors here were mistakes in the use of the negative form of the verb so the answers were saying the opposite of what was intended – "If you do A then you won't B" when "If you don't do A…" was necessary. Also, there was confusion about the correct verb usage here – "if you don't A you couldn't/wouldn't B" was a common error, for example.